

## ハウス内での病害に注意を！！

しんせい管内では代掻き作業が盛期を迎え、早いところでは田植え作業をおこなっている状況となっております。ハウス内の苗も大きくなり、田植えを行っても良い生育ステージとなっております。一方で立枯れ病などの病害の発生も散見されております。ハウス内で病害が見られる場合は適切な防除を行うか、圃場の準備ができている場合は早めに田植えを行うようにしましょう。

### ●病害と対策（農薬の使用方法・使用回数に注意して下さい）

#### ①リゾープス菌

- <特徴> 白い菌糸状のものが発生し、出芽や生育に影響がでる。ひどくなると枯死する。
- <原因> 出芽時の高温(32℃以上) 多湿 乾燥
- <対策> 基本的にはハウスを開放し、温度を下げると解消する。  
ダコニール1000 500倍希釈液 500ml/箱



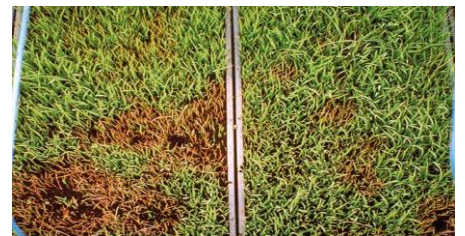
#### ②ピシウム菌

- <特徴> 葉がしおれて、ロール状のようになる。昼にしおれ、朝になると回復するが、また昼頃しおれる。2～3日続くと枯死する。
- <原因> 緑化期(1.5葉期)頃の低温
- <対策> 播種前 タチガレエース粉剤(6～8g/箱)  
発芽後 タチガレエースM液剤(500倍 500ml/箱)



#### ③フザリウム菌

- <特徴> 籾を中心に赤色のようなカビが発生する。葉が萎えたようになり、その後枯死する。根組みも悪化。
- <原因> 温度30℃以上または10℃以下など極端な高温や低温、極端な乾燥や過湿
- <対策> タチガレエースM液剤(500倍 500ml/箱)



#### ④トリコデルマ菌

- <特徴> 籾の周りに青いカビが発生する。根が伸びず、根量も少ない。根組みが悪くなる。
- <原因> 箱内のPHが低い 乾燥
- <対策> ベンレート水和剤(500倍 500ml/箱)  
使用回数は1回以内



## ⑤リゾクトニア菌

<特徴> 育苗期後半に灰緑色になり、黄化してくる。育苗箱の中心から発病するケースが多い。

<原因> 厚播き 窒素過多 高温多湿

<対策> バリダシン液剤 500倍希釈液 500ml/箱



## ⑥粉枯細菌病

<特徴> 出芽した後、新しい葉が湾曲して出る。葉身基部が黄白色になった後褐色になり腐敗して枯死する。

<原因> 出芽時の高温多湿、1葉期の風通しの悪さ

<対策> 早めに圃場へ植える。



※①～④の病害と対策は以前の稲作情報にても掲載しております。⑤⑥は新規に掲載

## ●病害が見えた場合は早めの田植えを！！

病害と対策について記載しましたが、いずれの対策も一時的な応急処置と考えましょう。病害を食い止める効果は得ることができますが、回復して元通りとはなりません。箱内で病害が発生し、時間が経過してしまうと最悪の場合、苗が死んでしまいます。そうならないために早めに田植えを行い苗を良い環境へ移してあげることが重要です。病害を受けた苗も田植えにより環境が改善されると少しずつ復活してくるようになります。長い間ハウスに苗を置き老化苗にしてしまうと田植後の活着にも影響がでますので注意しましょう。

## ●株数と植え込み本数について

株数は様々な気象変動に対応するために70株/坪を推奨します。株数が少ないと初期茎数の確保が絶対的に必要になります。また、気候変動により茎数が確保できないと収量減の原因となってしまいます。植え込み本数は播種量によって異なりますが、稚苗で4～5本、中苗で3～4本とするようにしましょう。この植え込み本数は70株植えて㎡あたり424本の茎数を確保するために必要な目安となっております。

## ●田植えまでハウス管理について

苗の生育ステージは2葉が完全展開し、3葉目が出葉しているのが見受けられます。ハウス内の管理としては特に寒くない(霜などが降りていない)場合は、昼夜ともにハウスを開放し、外気に苗を慣らすようにしましょう。少なくとも田植え1週間前からはこの管理を行うようにして下さい。十分に外気に慣らしておくことにより田植後の活着が良くなり、初期生育の確保にも繋がります。

## ●稲作メールマガジンについて

おかげさまでメール配信の登録者は増加傾向となっております。引き続き生産者の皆様の栽培上で参考となる情報配信に努めて参りますので登録されていない方はぜひ登録して活用して頂けるようお願い致します。また、稲作だけでなく園芸に関する情報も配信しておりますので欲しい情報にチェックし、登録を進めて頂きたいと思っております。

